

## まちの活性化・都市デザインコンペのこと

東京大学先端科学技術研究センター教授

西村 幸夫



1952年福岡生まれ。東京大学都市工学科卒、同大学院修了。明治大学助手、東京大学助教授を経て、1996年より東京大学教授。専門は都市計画、都市保全計画、都市景観計画、市民主体のまちづくり論など。著書に「都市保全計画」（東京大学出版会）、「西村幸夫 風景論ノート」（鹿島出版会）等がある。

udcとの様々なつきあいの中で一番長く続いていると同時に思い出深いのが「まちの活性化・都市デザイン競技」の審査にまつわるものである。

まちの活性化・都市デザイン競技とは1998年から今日まで続いているudc主催のデザインコンペである。前身の「ふるさと顔づくり設計競技」が1993年から1997年まで5年間同じくudcの主催で開催されたのを受け継ぐ形で始まっている。私はこの新生コンペの第1回目から審査委員として参加し、第3回（2000年）からは、審査委員長を新谷洋二先生から受け継いで今日に至っている。

前身のふる顔コンペについてはその経緯を知らないのですが、詳しく前後の事情を述べる事ができないが、まちの活性化・都市デザインコンペは都市整備のための事業を伴うような具体的な都市のデザインの質を上げるために、なるべく実現可能な、しかし夢と将来性があるプランを推進するために創立されたコンペであると個人的には思っている。udcのパンフには、「対象地区を公募により選定し、当該地区のまちづくり構想とまちなみのデザインについて、様々な発想に基づく提案を広く一般から求め、今後のまちづくりと都市デザインに対する関心を高めることを目的」としているところである。

その対象都市および地区は表の通りである。いずれも何からの都市整備が予定されているところであり、コンペで示されたアイデアをうまく活かせるならば参考にしたいという意図も自治体側には少なからずあるといえる。

それぞれのコンペの審査はどれも印象深いが、コンペの課題とともに受賞作品の性格も少しずつ変わってきていることが興味深い。ここでは、udc創立20周年を振り返るひとつの視点として、まだ11年の歴史しかないものの、このコンペの課題と受賞作品の傾向について振り返ってみたい。

最初の頃は、ある地区のまちづくり全体についておおきな構想を問うような課題が多かったように思う。したがって応募作品もおおきな構想を展開した夢のあるものが多かったといえる。このことは裏を返すと実現可能性にやや疑問があるとしてもそうした短所よりもユニークな構想を評価するような雰囲気審査委員の側にも見られたということでもある。

しかし、回数を重ねるうちに、やはりきちんとした事業制度を前提として実現可能性の高い案を評価すべきだという内部意見が大きくなり、応募要項にもそのような記載がなされるようになり、できれば受賞案のプランが実現できるようなことになればすばらしいといった機運が生まれてきた。駅前や中心市街地の活性化に関する区域を絞った提案が求められるようになったので

ある。

これに対応するように応募案も細かな地区分析をもとに、ハード・ソフトを取り混ぜた身の丈にあった種々の提案をパッケージで提案するものが増え、そのような提案に対する評価も高くなっていった。同時に、単なる全面的な都市更新ではなく、現に存在している都市内の歴史的な資産を活かしていくようなことも課題として含まれるようになり、提案はより緻密さを求められるようになってきた。

したがって受賞者の顔ぶれも、初期は大学の研究室チームが比較的多かったのが、最近では若手実務家を中心になってきた。受賞作品はいずれもじつに詳細に現地に即した、かつ将来ビジョンを持ったものばかりで、日本の都市デザインの質も理想を絵にする提案段階から現実を理想に近づける戦略的プランへと、地に足がついたものになってきているという実感が強い。できれば受賞作品の中から実施策に反映されるものが出てくることを期待したい。受賞者が事業のコンサルタントとして現実にプロジェクトを動かすようになれば、都市デザインの質もまたさらに高まっていくに違いない。udcによるこのコンペがそのような動きの原動力のひとつとなることを祈念したい。

### 「まちの活性化・都市デザイン競技」の概要

回数 (年度)	対象都市	対象地区 (面積)	課題テーマ
第1回 (1998)	滋賀県 大津市	JR大津駅周辺地区 (70ha)	1300年の歴史を活かした歩いて楽しむ都市観光、商業の活性化
第2回 (1999)	三重県 桑名市	桑名駅周辺地区 (16ha)	連続立体交差事業に伴う駅前地区の再編整備
第3回 (2000)	栃木県 足利市	中心市街地 (7ha)	都市本来の「生活の場」「交流の場」の再生
第4回 (2001)	富山県 福岡町	JR北陸本線福岡駅前周辺地区 (16ha)	水みどり 新しいキラッと福岡
第5回 (2002)	岩手県 盛岡市	中の橋・肴町地区 (18ha)	歩いて楽しむ都市観光 川と歴史が融合するまち・・・盛岡
第6回 (2003)	千葉県 柏市	柏駅周辺地区 (20ha)	まちのにぎわい、都市環境の再構築
第7回 (2004)	岡山県 岡山市	桃太郎大通り沿道地区 (33ha)	風格と賑わいのある都心景観の創出
第8回 (2005)	神奈川県 鎌倉市	鎌倉駅西口周辺地区 (12ha)	古都鎌倉の玄関口にふさわしい質の高い生活空間と活力ある地域交流拠点の整備
第9回 (2006)	兵庫県 姫路市	姫路駅周辺地区 (27ha)	播磨の中核都市にふさわしい魅力と活力あふれる交流都市の演出
第10回 (2007)	埼玉県 春日部市	春日部市中心市街地 (87ha)	街なかに春日部市民や来街者の多彩な交流を演出する「劇場都市かすかべ」を創る
第11回 (2008)	滋賀県 彦根市	芹橋地区 (14ha)	歴史的街並み保全と居住環境の向上
第12回 (2009)	栃木県 宇都宮市	小幡・清住地区 (17ha)	地域資源を活かした活力ある街並み形成と居住環境の向上